

理科調査資料 作成の観点

書名	<div style="display: flex; justify-content: center; gap: 20px;"> ○○○○ ○○○○ </div>	発行者番号 発行者名
項目		
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付くようにするために、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜科学的に探究する学習活動の充実を図るための工夫＞</p> <p>○「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの科学的に探究する学習活動が充実するために、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜日常生活や他教科等との関連を図るための工夫＞</p> <p>○理科で学習する規則性や原理などが日常生活や社会で活用されていることに気付かせたり、各教科と関連する内容や学習時期を捉えやすくしたりするために、どのような工夫がされているか。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるため、資料にどのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵、写真、図表などの位置と本文との関連に、どのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○記号、用語、単位などの使い方に、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○教材や内容の文章表現の難易度について、生徒の発達の段階に応じてどのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	<p>(全体的な特徴、その他)</p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新編 新しい科学</h1>	2 東 書
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各節に「課題」「課題に対する結論を表現しよう」が示されている。各単元の最初だけでなく随所に既習事項が示され、章末や単元末、デジタルコンテンツで重要語句や基本事項が確認できるように工夫されている。観察・実験では手順がステップに分けられ、図や写真を用いて示されている。また、結果の例が写真や表で示されている。観察・実験の前及び巻末資料に「基本操作」が掲載されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○巻頭のマンガや各節のフローチャートで探究の進め方が示されている。また、観察・実験では、「結果の見方」と「考察のポイント」で結果・考察の視点が示されている。さらに、各節で振り返らせたり考えをまとめさせたりすることで、思考力や表現力を育成する場面が設定されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○巻頭で探究の流れや考察のコツが示され、教科書の使い方が説明されている。「おてがる科学」や「学びを生活や社会に広げよう」などのコラムがあり、主体的に学びを広げるための工夫がされている。また、SDGsの実現に向けた取組として、読み物「私たちのSDGs」において生徒自らが考える場面が設けられ、持続可能な社会を意識できるようになっている。 </p> <p> <科学的に探究する学習活動の充実を図るための工夫> ○探究の過程がアイコンと脚注のフローチャートで示されており、探究的な展開を基本とした構成になっている。「問題発見」から「ふり回り」「活用」までが段階的に配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。 </p> <p> <日常生活や他教科等との関連を図るための工夫> ○各種「読み物」（まちなか科学、お仕事図鑑等）において、日常生活や社会との関わりが紹介され、理科の有用性を実感できるように工夫されている。各教科で学習した内容について、「○○で学ぶこと」のマークが付けられ、教科間の関連が分かりやすいように配慮されている。 </p>	
資 料	<p> ○デジタルコンテンツとして、章末問題やインタビュー記事、シミュレーション、他教科との関連など、バリエーションが多く、活用しやすいような工夫がされている。 </p> <p> ○「まちなか科学」「なるほどね!」など、日常生活と学習内容を結び付け、個人でも手軽に探究ができるような資料を掲載することで、科学が身近に感じやすくなる工夫がされている。 </p>	
表記・表現	<p> ○本文などはUDフォントで統一され、重要語句や式は太字のゴシック体が使用されている。重要語句などには識字をサポートするために振り仮名が振られ、公式は下地の色を変え、単位を付けて表記されている。 </p> <p> ○実験の注意事項が、マークと配色を変えた文字で示されている。 </p>	
総 括	<p> ○巻頭で探究の流れや教科書の使い方などが示されている。単元配列は、各単元の指導時期や内容の関連性を踏まえた配置になっており、生徒の科学的概念の形成に配慮されている。 </p> <p> ○単元末には「学習内容の整理」「確かめ問題」「活用問題」が掲載されている。 </p> <p> ○巻末には「自由研究」「基礎操作」などがまとめられている。巻末に自分で組み立てる地学単元のペーパークラフトが付けられている。 </p> <p> ○各例題や章末、単元末にQRコードが設けられており、繰り返し学習できるように工夫がされている。 </p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">理科の世界</h1>	4 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">大日本</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各節に課題が示されている。各単元の最初だけでなく随所に既習事項が示され、章末や単元末で重要語句や基本事項が確認できるように工夫されている。観察・実験では、手順が図や写真を用いて示されている。また、結果の例が写真や表で示されている。観察・実験の近く及び巻末資料に「基本操作」とデジタルコンテンツが掲載されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○巻頭の「理科の学習の進め方」で探究の流れや方法が示されている。また、観察・実験では、「結果の整理」と「結果から考えよう」で結果・考察の視点が示されている。さらに、「振り返ろう」などでは、自分の言葉でまとめさせることで、思考力や表現力を育成する場面が設定されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○巻頭で理科の学習の進め方が示され、その中で教科書の使い方が説明されている。「やってみよう」や「つながる」などの項目が掲載され、主体的に学びを広げるための工夫がされている。また、SDGsの実現に向けた取組として、資料「Science press」において生徒自らが考える場面が設けられ、持続可能な社会を意識できるようになっている。 </p> <p> <科学的に探究する学習活動の充実を図るための工夫> ○探究の過程がマークで示され、重点項目は色分けされており、探究的な展開を基本とした構成になっている。「問題を見つけよう」から「振り返ろう」までが段階的に配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。 </p> <p> <日常生活や他教科等との関連を図るための工夫> ○「くらしの中の理科」において、日常生活や社会との関わりが紹介され、理科の有用性を実感できるように工夫されている。算数・数学、保健体育、技術・家庭で学習した内容について、「つながる」のマークが付けられ、教科間の関連が分かりやすいように配慮されている。 </p>	
資 料	<p> ○デジタルコンテンツとして、既習事項の確認や、「理科の世界WEBプラス」での実験解説の充実、自然観察スポットの紹介など、ICTを活用した学びを支援する工夫がされている。 </p> <p> ○「Science press」「科学のあしあと」「くらしの中の理科」など、科学的な知見や歴史、日常生活や社会との関連を取り上げた資料が用意されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○本文などはUDフォントで統一され、重要語句や式は太字のゴシック体が使用されている。重要語句などには識字をサポートするために振り仮名が振られ、公式は色の付いた枠で囲い、単位を付けて表記されている。 </p> <p> ○実験の注意事項が、下地の色を変えて示されている。 </p>	
総 括	<p> ○巻頭で学習の進め方や教科書の使い方などが示されている。単元配列は、小学校との関連を重視した配置となっており、観察・実験のしやすい時期や、学年による理科室使用の重なりなどに配慮されている。 </p> <p> ○単元末に「まとめ」「単元末問題」「読解力問題」が掲載されている。 </p> <p> ○巻末には「自由研究」「基礎操作」などがまとめられている。3年巻末の「学習のまとめ」では、1～3年の復習ができるようになっている。 </p> <p> ○「理科の学習WEB」には、WEBテストなどが設けられており、繰り返し学習できるように工夫がされている。 </p>	

書名 項目	<h1>中学校 科学</h1>	1 1 学 図
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○1時間ごとに「この時間の課題」「この時間のまとめ」が示されている。各単元の最初だけでなく随所に既習事項が示され、単元末に「学習のまとめ」を設けられ、重要語句や基本事項が確認できるように工夫されている。観察・実験では、手順の写真を用いて示されている。また、結果の例が写真や表で示されている。観察・実験の近くに「基本操作」が掲載されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○巻頭のマンガと「理路整然」で探究の進め方が示されている。また、観察・実験では、「結果」と「考察」で結果・考察の視点が示されている。さらに、「結果から考察する」では、具体的な表現例が示され、思考力や表現力を育成する場面が設定されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○巻頭で探究の流れが示され、理科の学習の進め方と教科書の使い方が説明されている。各章の始めと終わりに「Can-Do List」があり、主体的に学習に取り組めるようにするための工夫がされている。また、SDG sの実現に向けた取組として各章にアイコンが掲載されているとともに、コラムにおいてSDG sや脱炭素社会に向けた取組が記載され、生徒自らが持続可能な社会を意識できるようになっている。</p> <p><科学的に探究する学習活動の充実を図るための工夫> ○探究の過程がマークで示され、マークが矢印でつながっており、探究的な展開を基本とした構成になっている。「気づき」から「考察」「ふり返り」までが段階的に配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。</p> <p><日常生活や他教科等との関連を図るための工夫> ○「資料」において、日常生活や社会との関わりが紹介され、理科の有用性を実感できるように工夫されている。「つながり・○○」のマークが付けられ、他教科と関連付けられるよう配慮されている。「SDG sを意識して脱炭素社会へ」において、理科とSDG sとの関連が分かりやすいように配慮されている。</p>	
資 料	<p>○デジタルコンテンツとして、既習事項の確認や、動画や操作系の教材、「ミライ教科書」でWEBページに再構成された教科書の閲覧など、ICTでの学びに幅広く対応できるようになっている。</p> <p>○「理路整然」では学びの内容に対する着眼点や、探究の組み立て方が掲載され、探究を深めるための工夫がされている。</p>	
表記・表現	<p>○本文などはUDフォントで統一され、重要語句や式は太字のゴシック体が使用されている。重要語句などには識字をサポートするために振り仮名が振られ、公式は下地の色を変え、単位を付けて表記されている。</p> <p>○実験の注意事項が、下地と文字の配色を変えて示されている。</p>	
総 括	<p>○巻頭で理科を学ぶ意義や教科書の使い方などが示されている。単元配列は、想定する年間指導計画に沿って系統的に配置されている。あらかじめ余裕のある時間数で計画されており、探究等に時間を使えるよう配慮されている。</p> <p>○単元末に「学習のまとめ」などが掲載されている。</p> <p>○巻末には、「読解力問題」「思考をさらに深める」「基礎操作」などがまとめられている。</p> <p>○各ページに設けられたQRコードから「ミライ教科書」が利用でき、他学年の教科書を参照できるように工夫がされている。</p>	

書名 項目	<h1>自然の探究 中学理科</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">教 出</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各節に「課題」「結論」が示されている。各章の最初だけでなく随所に既習事項が示され、章末や単元末で重要語句や基本事項が確認できるように工夫されている。観察・実験では手順がステップに分けられ、図や写真を用いて示されている。また、結果の例が写真や表で示されている。観察・実験の近く及び巻末資料に「基礎技能」が掲載されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○巻頭の「探究の進め方」で探究の流れや方法が示されている。また、観察・実験では、「結果」と「考察」で結果・考察の視点が示されている。さらに、「活用しよう」や「考えよう」、「話し合おう」などでは、自分の言葉でまとめさせることで、思考力や表現力を育成する場面が設定されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○巻頭で探究の進め方が示され、理科の学習の流れが説明されている。「やってみよう」や「チャレンジ」などの項目があり、主体的に学習が進められるような工夫がされている。また、SDGsの実現に向けた取組として、「ハローサイエンス」で生徒自らが考える場面が設けられ、生徒自らが持続可能な社会を意識できるように工夫されている。</p> <p><科学的に探究する学習活動の充実を図るための工夫> ○探究の過程がマークで示され、折り込みページで探究の流れをいつでも参照できるようになっており、探究的な展開を基本とした構成になっている。「疑問」から「結論」までが段階的に配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。</p> <p><日常生活や他教科等との関連を図るための工夫> ○「ハローサイエンス」において、日常生活や社会との関わりが紹介され、理科の有用性を実感できるように工夫されている。算数・国語で学習した内容について、「ブリッジ〇〇」のマークが付けられ、他教科と関連付けられるよう配慮されている。特に、巻末資料「理科で使う算数・数学」では、教科間の関連が分かりやすいように配慮されている。</p>	
資 料	<p>○デジタルコンテンツとして、既習事項の確認や、実験操作等の説明、「まなびリンク」での習熟度に合った個別最適な学びの保障など、ICTでの学びをサポートする資料がある。QRコードはどのページも共通して、ページ番号の横に配置されている。</p> <p>○「ハローサイエンス」や「広がる科学の世界」では、日常生活や社会との関連、高等学校への接続や発展を意識した資料が掲載され、科学を身近に感じやすく、理科の有用性を伝える工夫がされている。</p>	
表記・表現	<p>○本文などはUDフォントで統一され、重要語句や式は太字のゴシック体が使用されている。重要語句などには識字をサポートするために振り仮名が振られ、公式は下地の色を変え、単位を付けて表記されている。</p> <p>○実験の注意事項が、マークと配色を変えた文字で示されている。</p>	
総 括	<p>○巻頭で理科を学ぶ意義や探究の進め方などが示されている。単元配列は、各単元の指導時期や学習内容のつながりを考慮した配置となっており、地域や学校の実態に応じた指導計画を立てられるように配慮されている。</p> <p>○単元末に「要点と重要用語の整理」「基本問題」「活用問題」が掲載されている。</p> <p>○巻末には「学年末総合問題」「基礎技能」などがまとめられている。「学年末総合問題」では、1年間の学習の復習ができるようになっている。</p> <p>○各単元の章末には、QRコードが設けられており、繰り返し学習できるように工夫がされている。</p>	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">未来へひろがるサイエンス</h1>	61 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">啓林館</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各節に課題が示されている。デジタルコンテンツや各章の最初だけでなく随所に既習事項が示され、章末や単元末、デジタルコンテンツで重要語句や基本事項が確認できるように工夫されている。観察・実験では手順がステップに分けられ、図や写真を用いて示されている。また、結果の例が写真や表で示されている。観察・実験の近くに「観察・実験のスキル」とデジタルコンテンツが掲載されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○巻末の「探Qシート」で探究の進め方や方法が示されている。また、観察・実験では、「結果」と「考察」で結果・考察の視点が示されている。さらに、「探Q実習」「探Q実験」「Action活用してみよう」などでは、自分の言葉でまとめさせることで、思考力や表現力を育成する場面が設定されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○巻頭で探究の過程が示され、その中で教科書の使い方とICTの活用事例が紹介されている。各単元の一つ「探Q実験」が設定され、巻末の「探Qシート」を活用して主体的に学習させるための工夫がされている。また、SDGsの実現に向けた取組には「SDGsマーク」が付けられ、裏見返しで日本各地の取組を紹介することで、生徒自らが持続可能な社会を意識できるようになっている。</p> <p><科学的に探究する学習活動の充実を図るための工夫> ○探究の過程がマークで示され、マークが1本のラインでつながっており、探究的な展開を基本とした構成になっている。「疑問」から「考察」「探究のふり返し」までが段階的に配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。</p> <p><日常生活や他教科等との関連を図るための工夫> ○科学コラム「○○ラボ」において、日常生活や社会との関わりが紹介され、理科の有用性が実感できるように工夫されている。各教科で学習した内容について、「○○と関連」のマークが付けられ、他教科と関連付けられるよう配慮されている。特に、サイエンス資料「理科で使う算数・数学」では、教科間の関連が分かりやすいように配慮されている。</p>	
資 料	<p>○デジタルコンテンツとして、既習事項の確認や、動画、触って動かせるコンテンツなど、ICTを活用した学びがサポートされている。</p> <p>○「お仕事ラボ」「部活ラボ」など、日常生活や社会との関連、生徒の興味関心に働きかけるような資料を掲載し、科学を身近に感じやすく、理科の有用性を伝える工夫がされている。</p>	
表記・表現	<p>○本文などはUDフォントで統一され、重要語句や式は太字のゴシック体が使用されている。重要語句などには識字をサポートするために振り仮名が振られ、公式は下地の色を変え、単位を付けて表記されている。</p> <p>○実験の注意事項が、マークと配色を変えた文字で示されている。</p>	
総 括	<p>○巻頭で探究の過程や教科書の使い方、ICTの活用などが示されている。単元配列は、同一学年内での単元指導順序の入替えが自由に行えるような配置になっており、2学期制や3学期制にも対応できるように配慮されている。</p> <p>○単元末に「学習のまとめ」「力だめし」「みんなで探Qクラブ」が掲載されている。</p> <p>○巻末には「学年末総合問題」「サイエンス資料」などがまとめられている。巻末に各単元の「探Qシート」が付けられている。</p> <p>○各章末や単元末にはQRコードが設けられており、繰り返し学習できるように工夫がされている。</p>	

理科 調査資料 2

○分量について

内容		学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数		1年	262	294	264	291	300
		2年	314	318	304	315	324
		3年	326	374	304	347	356
2 個人研究課題等の例示数		1年	9	9	2	7	4
		2年	13	8	1	4	4
		3年	12	8	1	4	4

○領域別教材数等について

内容		学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館
1 小単元数		1年	13	14	12	15	13
		2年	15	14	12	14	15
		3年	18	18	12	20	19
2 領域別観察・実験等数	1年	身近な物理現象	6	6	8	6	7
		身の回りの物質	7	6	7	6	9
		いろいろな生物とその共通点	5	7	6	5	6
		大地の成り立ちと変化	5	8	6	5	6
	2年	電流とその利用	8	10	8	7	10
		化学変化と原子・分子	9	10	8	7	9
		生物の体のつくりと働き	9	10	7	7	7
		気象とその変化	4	5	5	3	7
	3年	運動とエネルギー	6	7	11	5	9
		化学変化とイオン	8	8	7	6	8
		生命の連続性	2	4	5	2	3
		地球と宇宙	6	6	8	5	5
	科学技術と人間、自然と人間	6	2	3	2	4	

○その他

内容		学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館
1 読み物などの資料数		1年	27	46	34	48	70
		2年	46	69	26	64	87
		3年	49	54	44	70	84
2 埼玉県に関する資料 (写真・図) の数		1年	2	2	1	2	0
		2年	0	2	1	4	2
		3年	1	1	1	3	1
3 QRコードの数		1年	252	28	194	120	197
		2年	255	20	222	109	187
		3年	243	13	222	121	203

○日常生活や他教科等との関連についての記載の例

	記載の数	特徴的な例
東書	140	技術・家庭で学ぶこと 野菜・いもの種類 (1年) 数学で学んだこと 比例式の利用 (2年) 他教科で学ぶこと SDGs (3年)
大日本	132	万葉集から見る植物 (1年) 完全燃焼と不完全燃焼 (2年) 力の分解の活用例 (3年)
学図	69	混ぜるな危険 (1年) 乾湿計と「打ち水」 (2年) 農業を変えた無性生殖「接ぎ木」 (3年)
教出	118	牛乳は水溶液か? (1年) 不完全燃焼 (2年) 情報モラル (3年)
啓林館	96	大地と食材のかかわり (1年) 鉄はどうとり出す? (2年) イオン飲料で水分とイオンの補給 (3年)

音楽科（一般）調査資料 作成の観点

書名 項目	○○○○ ○○○○	発行者番号 発行者名
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現をするために必要な技能を身に付ける上で、題材の設定、題材構成、教材の配置など、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにどのような工夫がされているか。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うためにどのような工夫がされているか。</p> <p>＜音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫＞</p> <p>○歌唱教材の選択において、音域や演奏の難易度等を含めて、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○創作教材の選択において、無理なく取り組ませるためにどのような工夫が見られるか。</p> <p>＜生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <p>○生活や社会の中の音や音楽の働きの視点や、音楽文化を継承、発展、創造していかうとする態度の育成のためにどのような工夫がされているか。</p>	
資 料	<p>○学習意欲を高めたり、発想を広げたりするためにどのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵・写真・図表等の資料のレイアウトにはどのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○表現教材や鑑賞教材の譜例の使い方など、楽譜の提示方法にはどのような工夫が見られるか。</p> <p>○音符、休符、記号、音楽に関わる用語の取り扱いにはどのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

書名 項目	<h2 style="text-align: center;">中学音楽 音楽のおくりもの</h2>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「Let's try! 指揮をしてみよう」では、指揮をする際の基礎的な知識及び技能について説明があり、発達の段階に応じて習得できるよう工夫されている。 ○「Sing!Sing!」では、歌唱表現の基礎的な技能や創意工夫して音楽表現するための手がかりが示され、教科書に書き込みながら学習できるよう工夫されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ACTIVE!」では音楽を形づくっている要素や感じ取ったこと、雰囲気について直接書き込み、示された他の教材と曲想や音楽の構造などを比較することで学習を深められるように工夫されている。 ○音楽を形づくっている要素を基に、音楽の魅力を感じ取ったり、思いや意図を生かして表現したりできるよう、教材や扱い方が配慮されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幅広い知識と教養、豊かな情操を培えるように、我が国及び諸外国の音楽から、様々な時代や曲種のもものが掲載されており、音楽のもつ多様なよさや面白さを感じ取ることができるよう工夫されている。 <p>＜音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歌唱教材では、表現方法のポイントが示されており、音域、曲の長さ、歌詞の内容が発達の段階に応じて系統的・発展的に学べるように工夫されている。 ○創作教材「音のスケッチ」では、テーマやことばをリズムと関連付け、創意工夫を生かした表現で音楽をつくることができるように活動の手順を提示するなどの工夫がされている。 <p>＜生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○著作権についてQAで具体的に示し、作品や著作権の創造性を尊重する態度を形成し、音楽文化の継承、発想、創造を支えることの理解を促す工夫がされている。 ○SDGs と音楽の関わりやアウトリーチ、音楽を通じた教育活動が示され、生活や社会における音楽の意味や価値を考えられるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年の巻末では楽典が教材と関連付けながら掲載されており、様々な楽器や音楽年表が写真と共に整理されている。 ○我が国や郷土の伝統音楽で実際に使用されている譜面が大きく掲載されている。 ○QRコードから解説動画を視聴することで指揮や創作などの表現を学び、学習を深めることができるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○目次や各ページの見出しは表現、創作、鑑賞ごとに色分けされて表記されている。 ○教材に関連する音楽用語や記号が該当ページに示され、巻末の「楽典」には、掲載ページも示されている。発展として「音の三要素」が掲載されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○表現と鑑賞がバランスよく配置され、「学習 MAP」で年間の学習内容を関連付けて示されている。 ○様々な音楽について比較して学習し、共通性と固有性を考え、音楽文化の理解を深めるための工夫がされている。 	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">中学生の音楽</h1>	27 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">教 芸</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「指揮をしてみよう！」では、表現の基礎的な技能の習得や創意工夫して音楽表現するための手立てが示され、音楽の特徴に応じて習得できるように工夫されている。 ○「My Voice!」では、発達の段階に応じた歌い方が紹介されている。また、民謡・長唄では、絵譜を使って発声の特徴が示されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教材では音楽を知覚・感受する際の焦点が示されていたり、譜例と関連付けながら音楽を形づくっている要素が示されていたりするなど、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせられるよう工夫されている。 ○「学びのコンパス」では学習の手順に番号を付け、各段階で考えること等が示されており、学習の流れが把握しやすいよう工夫されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音楽活動を通して、音楽を形づくっている要素を捉えたり、それらを生かして創作の活動を進めたりできるよう、教材が適切に配置され、音楽と豊かに関わりながら、学校での学びと自らの生活をつなぐことができるよう工夫されている。 <p>＜音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歌唱教材では、楽曲の紹介文や考えたいポイントが示されており、様々な音楽表現を学べるように工夫されている。 ○創作分野における知識及び技能を身に付けられるよう「My Melody」「Let's Create!」では、旋律をつくる活動や様々な楽器や身の回りの音を用いて音楽を構成する活動などが掲載されている。 <p>＜生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音楽メディアの変化や著作権等を示し、作品や著作権の創造性を尊重する態度を形成し、音楽文化の継承、発想、創造を支えることの理解を促す工夫がされている。 ○「生活や社会の中の音楽」では、音楽の役割、仕事と音楽等を示し、生活の中にある様々な音や音楽への関心を促す工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞教材では、音楽の特徴を理解するための書き込み欄や対比表を使い、考えるポイントが掲載されている。 ○各教材のページに学習目標・音楽を形づくっている要素等が示されている。 ○QRコードを読み取ることで、学習に役立つコンテンツへアクセスして、閲覧、視聴できるようになっている。 	
表記・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○目次や各ページの見出しは表現、創作、鑑賞ごとに色分けされて表記されている。 ○教材に関連する音楽用語や記号が該当ページに示され、巻末には「音楽の約束」として楽典資料が掲載されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○表現と鑑賞がバランスよく配置され、目次とは別に年間の学習内容を俯瞰して見通せるよう工夫がされている。 ○自国や諸外国に伝わる様々な音楽が掲載されており、そのよさを感じ取りながら、表現活動に取り組み、音楽文化の理解を深めるための工夫がされている。 	

音楽科（一般） 調査資料 2

○分量について

内容	学年	教出	教芸
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	1年	92	98
	2・3年上	92	98
	2・3年下	92	98
2 QRコードの数 ※ 目次と裏表紙も含む	1年	14	46
	2・3年上	13	44
	2・3年下	10	35

○学習活動別教材数について

内容	学年	教出	教芸
1 楽譜の付いた表現（歌唱）教材の数	1年	22	21
	2・3年上	22	18
	2・3年下	18	18
2 表現（創作）教材の数	1年	2	2
	2・3年上	2	2
	2・3年下	2	2
3 主となる鑑賞題材の数	1年	8	7
	2・3年上	9	6
	2・3年下	6	7
4 例示している鑑賞教材の数 ※民謡等はそれぞれカウント ※作曲家紹介や年表等の楽曲は除く	1年	67	69
	2・3年上	12	73
	2・3年下	13	97

○その他

内容	教出	教芸	
我が国や郷土の伝統音楽の扱い（埼玉の伝統音楽の扱いも含めて）	1年	<ul style="list-style-type: none"> 日本の民謡は、日本地図を用いて示している。（地図上紹介、「秩父音頭」「ソーラン節」、「かりぼし切り歌」を表現活動で取り上げている。 箏と尺八を取り上げ、箏では表現活動につなげている。 日本とアジアの声の表現や、箏と同じ発音原理と構造をもった楽器を写真で紹介している。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の民謡は、日本地図を用いて示している。（地図上紹介、「秩父音頭」「ソーラン節」は表現活動があり、演奏者からのアドバイスが記載されている。 雅楽と箏曲が取り上げられ、「越天楽」の唱歌の体験コーナーがある。 アジアの諸民族の音楽が、日本の民謡と聴き比べの視点と共に示されている。
	2・3年上	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭では、笙奏者のインタビューが掲載されている。 雅楽と能が取り上げられ、唱歌と謡の体験コーナーがあり、演奏のポイントが記載されている。 日本各地の音楽や芸能について取り上げ、写真とともに特徴が示されている。埼玉では秩父夜祭が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭では、歌舞伎役者のインタビューが掲載されている。 歌舞伎と文楽が取り上げられ、長唄と義太夫節の体験コーナーには演奏者のアドバイスが記載されている。 日本各地に伝わる郷土の祭や芸能とその特徴が、写真で示されている。（地図上紹介「秩父夜祭の屋台行事と神楽」）
	2・3年下	<ul style="list-style-type: none"> 歌舞伎と文楽が取り上げられている。歌舞伎では長唄「勸進帳」の体験コーナーがあり、演奏のポイントが掲載されている。 舞台芸術である西洋のオペラと日本の歌舞伎を比較して鑑賞するコーナーがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 尺八と能が取り上げられ、謡の体験コーナーには演奏者からのアドバイスが記載されている。 郷土の祭や芸能が、中学生が受け継ぐという視点で示されており、久喜市の鷲宮催馬楽神楽が扱われている。

音楽科（器楽）調査資料 作成の観点

書名	<div style="font-size: 2em; font-weight: bold; letter-spacing: 0.5em;">○○○○ ○○○○</div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現をするために必要な技能を身に付ける上で、題材の設定、題材構成、教材の配置など、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにどのような工夫がされているか。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うためにどのような工夫がされているか。</p> <p>＜音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫＞</p> <p>○器楽教材の選択において、音域や演奏の難易度等を含めて、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <p>○生活や社会の中の音や音楽の働きの視点や、音楽文化を継承、発展、創造していこうとする態度の育成のためにどのような工夫がされているか。</p>	
資 料	<p>○学習意欲を高めたり、発想を広げたりするためにどのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵・写真・図表等の資料のレイアウトにはどのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○表現教材や鑑賞教材の譜例の使い方など、楽譜の提示方法にはどのような工夫が見られるか。</p> <p>○音符、休符、記号、音楽に関わる用語の取り扱いにはどのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1>中学器楽 音楽のおくりもの</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">教 出</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○各楽器の構造や各部の名称が写真や図で記されると共に、楽器の構え方については複数の角度から掲載され、奏法など分かりやすく説明がされている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○「表現の仕方を調べてみよう」では器楽表現や鑑賞を通じて学習した楽器の音の出る仕組みや旋律の特徴に着目し、「話し合おう」を活用して学びを深める工夫がされている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○「合わせて演奏しよう」では、自分の思いや意図を他者との協働で生かし、様々な楽器で多様な音楽表現を工夫できるように配慮されている。各パートの役割を一人一人が担うことで自他の敬愛や協力を重んずる態度が養われるよう配慮されている。</p> <p>○「Let's Play!」や「Let's Try!」で合奏の難易度を示すなど、生徒が主体的・協働的に学習が進められるよう工夫されている。</p> <p>＜音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫＞</p> <p>○基礎から始め「深めてみよう」まで、段階的な構成になっており、創作と関連付けて学習できる教材が用意されている。</p> <p>○リコーダーの楽曲は、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーのどちらでも学習できるように楽譜が掲載され、平易な練習曲から始められるように工夫されている。また、運指がページの両端に示されて、確認できるようになっている。</p> <p>＜生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <p>○音楽を通じて、人と人とのつながりを生み出す取組を紹介し、生徒が意識的に生活や社会の中の音や音楽との関わりに目を向け、考えられるよう工夫されている。</p>	
資 料	<p>○楽器の名手からのメッセージにより、生徒が音楽的な見方や考え方を働かせるためのヒントが得られるよう工夫されている。</p> <p>○器楽の学習をサポートするための資料（「ギター/キーボードコード表」）が、掲載されている。</p> <p>○QRコードを読み取ることによって、模範演奏を視聴できるなど様々な資料に触れられるよう工夫されている。</p>	
表記・表現	<p>○文などには、UDフォントの使用と色覚特性への配慮がされている。</p> <p>○和楽器の教材は、五線譜と和楽器固有の奏法譜が示されている。</p> <p>○リコーダーのタンギングやアーティキュレーションの説明部分では、図形等で示し、音や演奏のイメージがもてるように工夫して示されている。</p> <p>○巻末の「いろいろな用語、記号」で音符・休符・記号等の解説が示されており、掲載曲に書かれている記号が学習できるよう工夫されている。</p>	
総 括	<p>○各楽器の掲載する順序をカテゴリーごとに配置されていることで、楽器の表現の仕方について、特徴を踏まえて共通点や相違点を考えられるよう工夫されている。</p> <p>○各楽器の基礎から多彩な組み合わせによるアンサンブル、技能に応じた応用まで系統的にバランスよく取り上げている。歌唱・創作・鑑賞の各学習活動との関連にも配慮され、学校の実態を踏まえて取り扱うことができるように工夫されている。</p>	

書名 項目	<h1>中学生の器楽</h1>	27 教 芸
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○各楽器の構造や各部の名称が写真や図で記されると共に、楽器の構え方については複数の角度から掲載され、奏法など分かりやすく説明がされている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○「学びのコンパス」では、活動のヒントがイラストの吹き出しによって示されているほか、思考した内容を記述する場面が設定されており、実際に演奏して確かめることが出来るように工夫されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○「アンサンブルセミナー」では、自分の思いや意図を他者との協働で生かし、様々な楽器で多様な音楽表現を工夫できるように配慮されている。各パートの役割を一人一人が担うことで自他の敬愛や協力を重んずる態度が養われるよう配慮されている。</p> <p>○器楽の学習内容を俯瞰することのできるページを設けることで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。</p> <p>＜音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫＞</p> <p>○教材には学習目標や学習内容に即した音楽を形づくっている要素が示されており、また創作活動と関連付けて学習できる内容も用意されている。</p> <p>○リコーダーの楽曲は、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーのどちらでも学習できるように楽譜が掲載され、平易な練習曲から練習できるように工夫されている。また、運指がページの両端に示されて、確認できるようになっている。</p> <p>＜生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <p>○各界の著名人からのメッセージや同世代の音楽活動の様子を掲載し、生徒が意識的に生活や社会の中の音や音楽との関わりに目を向け、考えられるよう工夫されている。</p>	
資 料	<p>○クラシック音楽に留まらず、バンドのスコアなど様々なジャンルの楽譜が掲載されている。</p> <p>○器楽の学習をサポートするための資料（「ギター/キーボードコード表」「楽器の図鑑」）が掲載されている。</p> <p>○QRコードを読み取ることによって、音源や資料を活用でき、個別最適な学びをサポートできるように工夫されている。</p>	
表記・表現	<p>○本文などには、UDフォントの使用と色覚特性への配慮がされている。</p> <p>○和楽器の教材は、五線譜と和楽器固有の奏法譜が示されている。</p> <p>○リコーダーのタンギングやアーティキュレーションの説明部分では、図形等で示し、音や演奏のイメージがもてるように工夫して示されている。</p> <p>○巻末の「音楽の約束」で音符・休符・記号等の解説が示されており、掲載曲に書かれている記号が学習できるよう工夫されている。</p>	
総 括	<p>○学習指導要領に示された三つの資質・能力に対応する学習内容や教材を見開きで示し、学習が見通せる工夫がされている。</p> <p>○各楽器の基礎から多彩な組合せによるアンサンブル、技能に応じた応用まで系統的にバランスよく取り上げている。歌唱・創作・鑑賞の各学習活動との関連にも配慮され、学校の実態を踏まえて取り扱うことができるように工夫されている。</p>	

音楽科（器楽合奏） 調査資料 2

○分量について

内容	教出	教芸
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	107	107
2 QRコードの数 ※ 目次と裏表紙も含む	24	42

○学習活動別教材数について

内容	教出	教芸
1 扱っている弦楽器の数（和楽器を除く）	15	13
2 扱っている管楽器の数（和楽器を除く）	12	24
3 扱っている打楽器の数（和楽器を除く）	6	17
4 扱っている和楽器の数	13	26
5 独奏教材の数（練習曲を含む）	71	89
6 二重奏以上の合奏教材の数	29	26

○その他

内容	教出	教芸
1 我が国や郷土の伝統音楽の扱い	<ul style="list-style-type: none"> ○箏、三味線、篠笛、太鼓、尺八の五つを扱っている。 ○和楽器を使った独奏曲や合奏曲が掲載されている。 ○吹く楽器と弾く楽器の共通点や相違点について考えるコーナーがある。 ○「音のスケッチ」として、和楽器や唱歌を用いた創作が掲載されている。 ○我が国の音楽文化に関わる演奏家や、伝統音楽の担い手、後継者について紹介されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○箏、三味線、篠笛、太鼓、尺八の五つを扱っている。 ○和楽器を使った独奏曲や合奏曲が掲載されている。 ○「日本の伝統音楽の楽器編成」で、それぞれの日本の伝統音楽の種類で演奏される主要な楽器を一覧で紹介しているコーナーがある。 ○「MyMelody」として、箏を用いた創作が掲載されている。 ○巻末の資料では、同世代の中学生による和楽器の演奏写真が掲載されている。

美術科調査資料 作成の観点

書名	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○ </div>	発行者番号 発行者名
項目		
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○対象や事象を捉える造形的な視点を理解できるように、どのような工夫が見られるか。 ○創造的に表すことができるように、どのような工夫が見られるか。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるように、どのような工夫がされているか。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養うために、どのような工夫が見られるか。 <p>＜一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりできるような工夫が見られるか。 ○鑑賞において、自分の価値観をもって批評し合うなど、言語活動が充実されるような工夫が見られるか。 ○単なる知識や理論の学習に偏らないような工夫が見られるか。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○学習意欲を高めたり、発想を広げたりできるよう、どのような工夫が見られるか。 ○制作過程や仕組み、材料や用具の安全な使い方などを理解できるよう、どのような工夫が見られるか。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○題材の示し方や説明文には、生徒の興味・関心・意欲を高めたり、学習内容の理解を深めたりするために、どのような工夫が見られるか。 	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

書名 項目	<h1>美術</h1>	9 開隆堂
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○題材を通して育成を目指す資質・能力の「小見出し」や、「作者のことば」によって造形的な視点を捉えられるような工夫がされている。 ○作品の制作の様子を段階的に示し、題材の内容に関連した巻末の「学びの資料」によって、より深く技能を理解できるような工夫がされている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○生徒の活動風景やアイデアスケッチ、考えるポイントが示され、どのように主題を生み出し、構想を練っていけばよいか理解できるような工夫がされている。 ○写真を大きく使った広がりのある紙面構成となっており、生徒の豊かな発想につながるように工夫されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○学習の意欲が高まるように「図画工作から美術へ」や「私たちに身近な美術」と題した資料を掲載する工夫が見られる。 ○振り返りができるように「作者のことば」を掲載し、「美術と私と社会」を掲載することで、社会と美術との関わりへの関心を高める工夫がされている。 </p> <p> <一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫> ○題材の冒頭で〔共通事項〕を意識できるように説明文を示し、形や色彩などについて考えられるように工夫がされている。 ○「小見出し」を示すことで育成を目指す資質・能力が分かり、言語活動が充実されるように鑑賞の観点や手順が示されている。 ○知識や理論の学習に偏らないように、扉のページで学習に対して意欲を高める内容を示したり、美術を身近に感じられる作品を掲載したりするなどの工夫が見られる。 </p>	
資 料	<p> ○学習意欲を高めるために原寸や部分拡大、見開きの図版が掲載されている。 ○表紙に凹凸のある印刷を採用することにより、指先で触って作品の質感を想像することができるように工夫されている。 ○「美術の用語」という別枠があり、図や文章で説明するなどの工夫が見られる。 </p>	
表記・表現	<p> ○UDフォントが使用されており、ルビ振りの対応も見られる。 ○全ページにおいてカラーユニバーサルデザインが採用されている。 ○それぞれの表記に共通したアイコンが用いられ、分類が見やすくなるよう工夫されている。 ○各題材に登場する共通のキャラクターを使用することにより、生徒の思考ポイントを導けるような工夫がされている。 </p>	
総 括	<p> ○表紙や見開きに写真を大きく掲載するなど、視覚的に生徒の関心・意欲を高める工夫がされており、多様な美術文化と楽しく出会うことができるよう工夫されている。 </p>	

美術科調査資料 1 - 2

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">美術</h1>	38 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">光 村</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○題材の冒頭に設けた鑑賞の問いかけや、「POINT」などの吹き出しによって、造形的な視点で捉えられるよう工夫されている。 ○題材の「表現」の項目で、制作途中を段階的に示し、巻末や別冊の「資料」へつなげることによって、より深く技能を理解できるよう工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○発想や構想の手立てとして、生徒や作家、国内、海外の作品など、多様な参考作品が掲載されている。 ○参考作品に鑑賞の視点や考える視点を示すことによって、作品の鑑賞から表現活動につなげていけるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の意欲が高まるように「絵や彫刻の世界」や「みんなの工夫」と題した資料を掲載する工夫が見られる。 ○美術の学びを人生や社会に生かすことができるように「美術の力」や「うつくしい！」と題した資料が掲載されている。 <p><一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○題材の冒頭に〔共通事項〕を意識できるような問いかけを示し、形や色彩などについて考えられるように工夫がされている。 ○言語活動が充実されるよう、授業の流れを明確に示し、生徒の活動での心情や考えを吹き出しで紹介するなどの工夫がされている。 ○知識や理論の学習に偏らないように、生徒が試行錯誤しながら制作する様子を丁寧に紹介し、制作意図や内面性を大切にすることを伝える工夫が見られる。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○学習意欲を高めるために見開きの図版が掲載されている。 ○技法などの資料をコンパクトな大きさの別冊にし、3年間の制作に活用できるように工夫されている。 ○鑑賞図版では用紙の種類を変え、生徒の学習意欲を高められるよう工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○UDフォントが使用されており、ルビ振りの対応も見られる。 ○全ページにおいてカラーユニバーサルデザインが採用されている。 ○それぞれの表記に共通したアイコンが用いられ、分類が見やすくなるよう工夫されている。 ○他教科とのつながりが表記されており、教科等横断的な学習の意識を高められるような工夫がされている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○別冊資料やQRコードにより、多くの資料が用意されており、技能や鑑賞など様々な視点から題材を理解できるように工夫されている。 	

書名 項目	<h1>美術</h1>	1 1 6 日 文
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○題材の冒頭の「鑑賞の入り口」という問いかけや、作品別の「造形的な視点」という吹き出しなどによって、造形的な視点を捉えられるように工夫されている。 ○題材の「表現のヒント」や「作者の言葉」、巻末の「学びを支える資料」によって、より深く技能を理解できるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「鑑賞の入り口」や「造形的な視点」を通して作品を造形的な視点で見つめ、見方や感じ方を深められるように工夫されている。 ○「表現のヒント」として主題を生み出す視点が示されており、思考力・判断力・表現力等の育成につなげる工夫が見られる。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の意欲が高まるように「美術との出会い」や「学びの探求と未来」、「学びの実感と深まり」と題した資料を掲載する工夫が見られる。 ○美術の学びが生活や社会につながるように、様々な職業の人物紹介や「社会に生きる美術の力」が掲載されている。 <p><一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「造形的な視点」や「作者の言葉」で〔共通事項〕や主題を意識できるような問いかけが示され、形や色彩などについて考えられるように工夫されている。 ○自分の見方や感じ方を大切にしながら、表現の幅を広げ、言語活動が充実されるように、造形活動中に交流する写真を発想や構想の場面で示す工夫がされている。 ○知識や理論の学習に偏らないように、発想や構想に役立つ資料として、現役アーティストの制作過程と、造形活動に活用できる手立てが紹介されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○学習意欲を高めるために原寸や部分拡大、見開きの図版が掲載されている。 ○作者の言葉・表現のヒント・造形的な視点の三つの見出しを設け、学習に活用できるように工夫されている。 ○題材を通して育成を目指す資質・能力が整理されて示されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○UDフォントが使用されており、ルビ振りの対応も見られる。 ○全ページにおいてカラーユニバーサルデザインが採用されている。 ○それぞれの表記に共通したアイコンが用いられ、分類が見やすくなるよう工夫されている。 ○題材タイトルの下に題材内容が短い文で、導入のための発問が設けられており、より深い学びにつながるよう工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○題材の冒頭に鑑賞作品を掲載することで表現との関連が図られ、紙面構成に統一感があるため、各題材の学習の流れが理解できるように工夫されている。 	

美術科 調査資料 2

○分量について

内容		学年	開隆堂	光村	日文
1	総ページ数 ※目録に記載されたページ数	1年	71	69	75
		2・3年上	127	107	65
		2・3年下			61
2	QRコードの数	1年	16	65	34
		2・3年上	25	61	35
		2・3年下			24

○題材数等

内容		学年	開隆堂	光村	日文		
1	題材数	1年	12	19	18		
		2・3年上	23	24	17		
		2・3年下			15		
2	A 表現	感じ取ったこと や考えたこと を基に、絵 や彫刻などに 表現する活動	描く活動の 題材数	1年	4	7	5
				2・3年上	6	5	3
				2・3年下			4
		つくる活動 の題材数	1年	1	2	2	
			2・3年上	2	4	3	
			2・3年下			1	
	B 鑑賞	伝える、使う などの目的や 機能を考え、 デザインや工 芸などに表現 する活動	描く活動の 題材数	1年	2	2	3
				2・3年上	3	5	2
				2・3年下			1
		つくる活動 の題材数	1年	3	5	3	
			2・3年上	4	8	5	
			2・3年下			4	
美術作品などのよさや美し さを感じ取り味わう活動の 題材数	1年	12	19	18			
	2・3年上	23	24	17			
	2・3年下			15			

○作者等別作品数について

内容		学年	開隆堂	光村	日文
1	生徒の作品数 (作者名等の表示があるもの)	1年	55	57	85
		2・3年上	109	39	62
		2・3年下			48
2	日本人の作品数 (作者名等の表示があるもの)	1年	49	82	54
		2・3年上	65	98	88
		2・3年下			53
3	外国人の作品数 (作者名等の表示があるもの)	1年	24	57	24
		2・3年上	90	75	51
		2・3年下			42
4	伝統的な表現の数 (文化財、民芸品等)	1年	19	13	15
		2・3年上	41	61	10
		2・3年下			49
5	埼玉県に関連した作品数 (作品等の紹介に「埼玉県」や地 名が表記されている作品等)	1年	1	0	1
		2・3年上	0	1	0
		2・3年下			

○その他

内容	学年	開隆堂	光村	日文
1 スケッチの数 (作者名等の表示があるもの)	1年	20	15	9
	2・3年上	4	5	3
	2・3年下			5
2 写真・ビデオ・コンピュータ等の 映像メディアの作品の数 (作者名等の表示があるもの)	1年	7	26	3
	2・3年上	14	13	31
	2・3年下			9
3 日本及び諸外国の独特な表現形式 を扱った題材数	1年	5	6	7
	2・3年上	6	6	4
	2・3年下			3
4 漫画、イラストレーション、図を 扱った題材数	1年	2	1	2
	2・3年上	6	4	3
	2・3年下			3
5 地域の素材を扱った題材等の数	1年	0	1	1
	2・3年上	0	1	1
	2・3年下			1
6 美術館等を活用した題材等の数	1年	1	1	1
	2・3年上	0	0	0
	2・3年下			1
7 共働で行う創造活動の作品数	1年	1	1	0
	2・3年上	6	0	0
	2・3年下			8

保健体育科調査資料 作成の観点

書名	<div style="font-size: 2em; letter-spacing: 1em;">○○○○ ○○○○</div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○個人生活における健康・安全について理解し、基本的な技能を身に付けるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫＞</p> <p>○健康・安全について科学的に理解するために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○体育分野と保健分野の相互の関連が図られるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○運動やスポーツの意義や多様性について理解するために、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習内容を理解しやすくするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○生徒の学習意欲を喚起するために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、どのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○生徒が学習しやすいよう、レイアウトや表現等にはどのような工夫が見られるか。</p> <p>○脚注、注釈等には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○記号、用語等には、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

<p>書名 項目</p>	<h1>新編 新しい保健体育</h1>	<p>2 東 書</p>
<p>内 容</p>	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○見開き 1 ページ 1 単位の学習を基本とし、「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」の 4 ステップが学習の流れとして配置され、章末問題により、知識の習得状況が確認できるよう工夫されている。 ○「巻末スキルブック」が新設され、知識や技能の確認や習得ができるよう工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」では、四つのステップで発問を設け、合理的な課題の解決に向けて、思考し判断するとともに、表現することを通して、思考力、判断力、表現力等を育成できるよう工夫されている。 ○「活用する」では、習得した知識・技能を用いて他者に説明したり、話し合ったりすることで、思考を深める活動ができるよう工夫されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」と学習が進むことや、写真や表等が効果的に使用されることで、生徒が主体的に取り組めるよう工夫されている。 ○他教科と関連する学習内容が記載されていることで、教科等横断的に学ぶことができ、生徒が興味や関心をもち意欲的に授業に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>＜生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫＞ ○各章の扉に「小学校で学習したこと」と「高校で学習すること」、「保健体育の職業」が記載されていることで、生涯にわたる学びにつながるよう工夫されている。 ○生活につながる口絵・章末資料があり、自分たちの生活とのつながりを考えて、SDGs やテクノロジー、情報についても学ぶことができるよう工夫されている。 ○「巻末スキルブック」による健康や安全に関するスキルの手本や詳しい解説があることで、生涯にわたって役立つスキルが身に付くよう工夫されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○各章末に「章末資料」「キーワード」「章末問題」「日常生活に生かそう」「SDGs について考えよう」が設けられ、理解が深められるよう工夫されている。 ○充実した口絵に加え、「教科書の使い方」「保健体育の学習方法」「巻末スキルブック」が示され、よりよく学習できるよう工夫されている。 ○「Dマークコンテンツ」では、インターネット学習ができるよう工夫されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○単語や文章、文末に補足説明や関連資料へのリンクが示されている。 ○学習を深めたり、他教科や他ページとのつながりを示したりするために、10 個のマークが活用されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○各章の扉に「この章で学習すること」として、課題と学習の流れが示され、小・中・高等学校の学習内容の系統性が明記されている。 ○学習の筋道が見える構成に加え、マスコットが学習のヒントを提示している。 ○興味・関心に応じて学びを深め広げることができる資料や各章末の発展的資料、「巻末スキルブック」により、個別最適な学びにつながるよう工夫されている。</p>	

<p>書名 項目</p>	<h1>中学校保健体育</h1>	<p>4 大日本</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○1時間の学習の流れを「学習のねらい」「つかもう」「課題を解決しよう」「深めよう」「まとめよう」「活かそう」と構成し、資料を活用しながら学習できるように工夫されている。 ○資料やイラスト、実技の写真、一覧性の高い折り込みを活用して、技能の習得に役立てるよう工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「つかもう」「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」「活用して深めよう」では、課題の発見・解決・学習したことを生かすなどの様々な活動により、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。 ○「学びを活かそう」では、学習したことを理解し、生活に生かすための課題を設定し、対話による思考を深める活動を通して、深い学びが実現できるよう工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○口絵では、生徒が自分のこととして捉えて学習する重要性を理解し、主体的に取り組むことができるよう工夫されている。 ○「つかもう」では、身近な題材や生活について取り上げることで、主体的に学習に取り組む態度を育むことができるよう工夫されている。</p> <p><生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫> ○「学びを活かそう」では、各章に、自分で考え実践していく内容が設けられており、生涯にわたって実践する資質や能力を養うことができるよう工夫されている。 ○各単元の学習内容を「保健編」「体育編」「他教科」のリンクに分けて示し、関連が深められるように工夫されている。 ○トピックスやミニ知識を掲載し、より深い学びと理解をすることができ、生涯にわたる健康の保持増進や豊かなスポーツライフを実現できるよう工夫されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○章末の「学びを活かそう」では、記入欄を設け、自分の意見を書き入れることができ、表現力を高められるよう工夫されている。 ○写真や、現代的なテーマの口絵に加え、「教科書の使い方」や「1時間の学習の主な流れ」が示され、見通しをもって学習できるよう工夫されている。 ○ウェブサイト内で動画を使ったインターネット学習ができるよう工夫されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○単語や文章、文末に補足説明や関連資料へのリンクが示されている。 ○学習を深めたり、他教科や他ページとのつながりを示したりするために、10個のマークが活用されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○各章の扉に「この章で学習すること」として、課題と学習の流れが示され、小・中・高等学校の学習内容の系統性が明記されている。 ○本文と資料が明確に分かれた構成となっており、参照性を高める作りとなっている。 ○「学習のまとめ」では豊富な関連資料等を基に幅広い知識を習得し、発展させるような内容が示されている。</p>	

<p>書名 項目</p>	<h1>最新 中学校保健体育</h1>	<p>50 大修館</p>
<p>内 容</p>	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○各学習項目で見開き1ページを1単位時間とし、学びを3ステップ構成「つかむ(章とびら)」「身につける・考える(本文・実習)」「まとめる・振り返る(章のまとめ)」とすることで、知識の定着が図れるよう工夫されている。 ○イラストや図表、実習ページが豊富に掲載されており、視覚的にも知識と技能の習得に役立つよう工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「つかむ」「身につける・考える」「まとめる・振り返る」の三つのステップで構成するとともに、多様な導入活動を提示し、学習課題につながる気付きや思考を促す学習過程を通じて、思考力、判断力、表現力等を育成できるよう工夫されている。 ○「学習のまとめ」では、様々な表現活動を提示し、多様な考え方を理解したり、集団としての考えを形成したりすることができるよう工夫されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「保健体育の学び方」や「デジタル教材の使い方」が掲載されていることで、生徒が教科書をより効果的に活用して学習に取り組めるよう工夫されている。 ○「課題をつかむ」から「学習のまとめ」という構成の中に、写真や図が効果的に掲載されていることで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。</p> <p>＜生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫＞ ○「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成し、「学習のまとめ」で学んだことを生かせるよう工夫されている。 ○社会の急速な変化に対応するため、今日的な課題を「コラム」や「特集資料」として取り上げ、生涯にわたって実践する資質や能力を養えるよう工夫されている。 ○共生社会や多様性に関連するテーマを重視して説明していることで、自己に合った様々な立場でスポーツや健康増進に取り組んでいけるよう工夫されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○各章末に設けられている「章のまとめ」には、基礎・基本の習得や確認の問題が示されていて、観点別に振り返りができるよう工夫されている。 ○「教科書の使い方」や学びを生活や社会につなげる口絵、様々な現代課題に対応した豊富な「特集資料」「コラム」を設け、深く学習できるよう工夫されている。 ○デジタル教材によって、インターネット学習ができるよう工夫されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○単語や文章、文末に補足説明や関連資料へのリンクが示されている。 ○学習を深めたり、他教科や他ページとのつながりを示したりするために、8個のマークが活用されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○各章の扉に「この章で学習すること」として、課題と学習の流れが示され、小・中・高等学校の学習内容の系統性が明記されている。 ○図や資料などが豊富に掲載され、レイアウトが見やすく構成されている。 ○学びをサポートする章のまとめや、全ての生徒が支障なく学習できるような配慮がされ、個別最適な学びを実現することができるよう工夫されている。</p>	

<p>書名 項目</p>	<h1>新・中学保健体育</h1>	<p>224 学 研</p>
<p>内 容</p>	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「課題の発見」「学習の課題」「課題の解決」「学びの活用」で構成され、「キーワード」を記載することで学習の見通しをもちながら、その時間で習得した知識を活用する学習活動ができるよう工夫されている。 ○身に付けるべき技能には「技能」のマークを付し、イラストや写真・動画を活用して、学習を深められるよう工夫されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「課題の発見」「学習の課題」「課題の解決」「学びの活用」では、体育や保健の「見方・考え方」を働かせて、各項目で設けられた課題の解決に向けて考えたり話し合ったりしながら、思考力、判断力、表現力等を育成できるよう工夫されている。 ○「学びの活用」では、身に付けた知識・技能や課題解決の道筋を基にした協働的な活動を通して、思考力、判断力、表現力等が身に付くよう工夫されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○項目の最後にある「とりくもーター」によって主体的に取り組めたかを自己評価し、記録することができ、メタ認知に関わる力を育むことができるよう工夫されている。 ○「協働マーク」が付いた教え合いや学び合いの課題が提示されていて「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の基礎を養うことができるよう工夫されている。 <p>＜生涯にわたる心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学びの活用」によって日常生活の課題に対応する実践力が身に付くようにし、関係ある職業にはJOBマークを提示して実生活に結び付くよう工夫されている。 ○「情報サプリ」「探求」「発展」等のマーク掲載によって、生涯にわたる健康増進や豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成できるよう工夫されている。 ○「ウェルビーイング」の向上が重視されており、一人一人が自分自身の価値観や生き方を考えながらよりよく生きることを意識することができるよう工夫されている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各章末に「探求しようよ！」という補足資料や、学習を振り返り、生活に生かすことができる「章のまとめ」、学年の終わりに「学年のまとめ」が設けられている。 ○関心を高める工夫がされた口絵に加え、「教科書の使い方」や「さまざまな学習方法」についてイラスト付きで具体的に示されている。 ○デジタルコンテンツがあり、インターネット学習ができるよう工夫されている。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○単語や文章、文末に補足説明や関連資料へのリンクが示されている。 ○学習を深めたり、他教科等や他ページとのつながりを示したりするために、11個のマークが活用されている。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各章の扉に「この章で学習すること」として、課題と学習の流れが示され、小・中・高等学校の学習内容の系統性が明記されている。 ○3つのステップ学習の流れに沿って、学習内容の要素が見やすく構成されている。 ○各章末に「探求しようよ！」を設け、興味・関心をもちやすい課題が取り上げられており、個別最適な学びにつながるよう工夫されている。 	

保健体育科 調査資料 2

○分量について

内容	東書	大日本	大修館	学研
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	198	196	206	206
2 体育理論、保健分野のページ数 (体育理論/保健分野)	32/124	39/122	40/140	38/132
3 絵・巻末の総ページ数	36	27	23	28

○単元別ページ数

東書	<p>○体育編 32 ページ</p> <p>「運動やスポーツの多様性」 11 ページ</p> <p>「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」 11 ページ</p> <p>「文化としてのスポーツの意義」 10 ページ</p> <p>○保健編 124 ページ</p> <p>「健康な生活と疾病の予防」 54 ページ (①14 ページ②20 ページ③20 ページ)</p> <p>「心身の機能の発達と心の健康」 28 ページ</p> <p>「傷害の防止」 22 ページ</p> <p>「健康と環境」 20 ページ</p>
大日本	<p>○体育編 39 ページ</p> <p>「運動やスポーツの多様性」 12 ページ</p> <p>「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」 16 ページ</p> <p>「文化としてのスポーツの意義」 11 ページ</p> <p>○保健編 122 ページ</p> <p>「健康な生活と疾病の予防」 50 ページ (①14 ページ②18 ページ③18 ページ)</p> <p>「心身の機能の発達と心の健康」 25 ページ</p> <p>「傷害の防止」 29 ページ</p> <p>「健康と環境」 18 ページ</p>
大修館	<p>○体育編 40 ページ</p> <p>「運動やスポーツの多様性」 12 ページ</p> <p>「運動やスポーツの効果・学び方・安全」 16 ページ</p> <p>「文化としてのスポーツ」 12 ページ</p> <p>○保健編 140 ページ</p> <p>「健康な生活と病気の予防」 60 ページ (①14 ページ②22 ページ③24 ページ)</p> <p>「心身の発達と心の健康」 32 ページ</p> <p>「けがの防止と応急手当」 26 ページ</p> <p>「環境の健康への影響」 22 ページ</p>
学研	<p>○体育編 38 ページ</p> <p>「スポーツの多様性」 12 ページ</p> <p>「スポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」 12 ページ</p> <p>「文化としてのスポーツ」 14 ページ</p> <p>○保健編 132 ページ</p> <p>「健康な生活と疾病の予防」 56 ページ (①16 ページ②22 ページ③18 ページ)</p> <p>「心身の発達と心の健康」 28 ページ</p> <p>「傷害の防止」 28 ページ</p> <p>「健康と環境」 20 ページ</p>

○領域別教材数等について

内容		東書	大日本	大修館	学研
領域別 教材数	運動やスポーツの多様性	3	3	3	3
	運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方	3	3	3	3
	文化としてのスポーツの意義	3	3	3	3
	健康な生活と疾病の予防	21	17	20	15
	心身の機能の発達と心の健康	10	9	12	8
	傷害の防止	8	8	8	6
	健康と環境	5	6	8	7

○その他

内容		東書	大日本	大修館	学研
1	体育分野と保健分野の関連をもたせた教材数 ※「欲求やストレスへの対処」と「体ほぐしの運動」等	42	43	36	43
2	主体的・対話的で深い学びを促すための教材数 ※「考えてみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」等	249	153	127	191
3	発展的内容の教材数	20	15	13	18
4	QRコードの数	87	29	131	87